



ロータリー：  
変化をもたらす

RI イアン・ライズリー会長テーマ

# Weekly 2017-'18 Report

17

2017/12/6

クラブ会長テーマ 奉仕を通じて、みんなが輝こう！

## 第 2344 回例会報告

日 時：平成 29 年 11 月 22 日 (水)

会 場：例会場

司 会：S A A

平川委員

開会点鐘

小澤 (谷) 会長

斉 唱：ロータリーソング「奉仕の理想」

お客様の紹介

小澤 (谷) 会長

濱中 秀子様 元郷土文化館学芸員 (卓話講師)

会長報告

小澤 (谷) 会長

本日はありません。

幹事報告

寺澤幹事

●地区大会の登録について

2月27日(火)13時点鐘・28日(水)例会の振替

\*昼食の口スをなくすお願いがきています

\*その他会議に参加希望の方は事務局まで

2/26(月)第3650地区(韓国)歓迎昼食会・

RI 会長代理歓迎晚餐会

2/27(火)P B G 歓迎昼食会・新会員歓迎昼食会

●地区 奉仕のつどいの開催

日時 3月27日(火)12時登録開始

場所 赤坂区民センター

委員長報告

●指名委員会の開催

内山指名委員長

第2回指名委員会を本日例会後に開催いたしますの

で委員の方はお残りください。

●事業委員会の開催

吉野 50 周年事業委員長

第2回の事業委員会を12月6日の例会後に開催いたします。また、事業委員以外でも委員会に関わりたという方はお申出ください。

●年忘れ家族例会について

長嶋親睦活動委員長

12月20日(水)年忘れ家族例会の内容が決まりました。アトラクションはプラスホンカーズ(ニューオリンズスタイルをベースとするプラスバンド)です。ご家族お揃いで大勢の方にご参加いただきたいと思います。

ニコニコBOX

本多親睦活動委員

●小澤谷守会長 元郷土文化館学芸員、浜中秀子様には本日の卓話をお引き受けいただきありがとうございます。宜しくお願い致します。

●寺澤幹事 浜中秀子様卓話、拝聴させていただきます。国立にゆかりのある「本田家」のお話、楽しみにしております。

●小澤孝造会員 浜中さん本田家の調査御苦労様です。本日の卓話楽しみです。拝聴させていただきます。

●杉田会員・秋廣会員 本日の卓話楽しみにしています。本田家のゆかりにちなんだ貴重なお話を聞かせて下さい。久しぶりに浜中さんの元気な姿をみさせて頂きました。

●木島会員 去るスポーツ例会では、週報に特集記事を載せていただくほどの珍事を起こしてしまい、ご迷惑をおかけしました。あらためておわびとお礼のニコニコをします。同組の本間さん・和美さん・崇文さんには聞かえたかも知れませんが、実は「ヨイショ・ヨイショ」と



RI 第 2750 地区 多摩中グループ

東京国立ロータリークラブ

会長 小澤 谷守

幹事 寺澤 武

例 会 日：毎週水曜日

例 会 場：谷保天満宮社務所 2 階 東京都国立市谷保 5209

事 務 所：東京都国立市谷保 5234-1 TEL:042-575-0770 FAX:042-572-8666

E-MAIL：kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp WEB：http://kunitachi-rc.com/

会報委員：青木 健・平川 貴浩・岡本 貞雄・秋廣 道郎

かけごえをかけながらの奮闘でした。

●近藤会員 浜中様、今日は卓話を引き受けていただきまして、ありがとうございます。国立の大切な文化遺産本多家のお話し、楽しみに聞かせていただきます。

●佐伯会員 浜中秀子様ようこそおいで下さいました。本日の本多家に関わる卓話楽しみに拝聴いたします。何

度伺ってもその度ごとに新しいことが出てくるお話ですね。

☀ニコニコBOX 合計 24,000円 累計 668,000円

出席報告

北島(清)出席奨励委員

11月22日 在籍49名中 出席38名

前々回(11月8日) 出席率 97.67%

閉会点鐘

岡本(貞)副会長

卓話  
TABLE SPEECH

## 「本田家と国立」

元・国立市郷土文化館学芸員 濱中秀子氏



### ■講師の紹介

近藤プログラム委員長

浜中さんは市役所にお勤めしていて、その後郷土館の学芸員になられ本多家の調査を続けています。

国立市で本多家のことを知っている一番の方です。本多家のご厚意で建物等をご寄付いただきましたので、これから国立の大切な文化遺産として、どう活用したら良いか、皆で考えていけたらいいと思います。



▲ 甲州街道に面して建つ本田家薬医門



▲ 本田家の室内

### ■国立のお宝

今年、8月3日の読売新聞・朝刊(多摩版)に、「本田家住宅・市に寄贈」という表題で本田家のことが大きく報じられておりました。皆さまもよくご存知と思いますが、本日は本田家の家屋および土地、所蔵資料の寄付に至る経緯についてお話しします。

本田家には平成21年まで本田ヤエさんがお住いでした。その家屋内に非常に貴重な資料があると言われておりましたが、その実態が分かりませんでしたので、平成23年から28年まで、ご当主の本田味夫氏の聞き取りと合わせて調査をしてみました。

調査した資料は13,620件で、点数では56,655点もありました。アルバムは1点数えをしませんので、全部の写真を含めると膨大な資料になりました。

本田家は江戸の初期に現在の場所に移り、明治、大正、昭和、平成と、ほとんど改築をすることなく、それも一家の方が住み続けたということは本当に稀なことで、国立だけのお宝にはできない、貴重な資料が眠っていたということになります。

この家屋そのものは、享保16(1731)年の祈祷札が発見されましたので、本田家がこの地にあったことが確認されています。それから286年、今でも甲州街道に面して、風雪に耐えてあの茅葺のお宅が残っていることを皆さまに強くお伝えしたいと思います。

今年の東京都文化財ウィーク(文化の日前後に開催)では、322名の見学者が本田家を訪れました。実は本田家は新撰組と所縁が深いことが知られていて、遠くは北海道からも見学者が来ることはあまり知られておりません。



それでは「江戸から昭和まで本田家が谷保に果たしたこと」についてお話しいたします。

まず、本田覚庵、本田定年、本田定寿の功績に共通することとして ①名主として地域のために貢献した。②医者として地域医療に貢献。③書家・文人として、江戸の中央で学んだ事を谷保近隣に広めたことです。

次に年代別に定済、定年、定寿の功績をご説明いたします。

### ●江戸幕末・本田定済（覚庵）

江戸時代幕末の谷保は府中と日野の宿に挟まれ、甲州街道には南養寺や谷保天満宮、清水の立場が江戸名所図会に紹介されるくらいで、のんびりとした江戸近郊の地域でした。

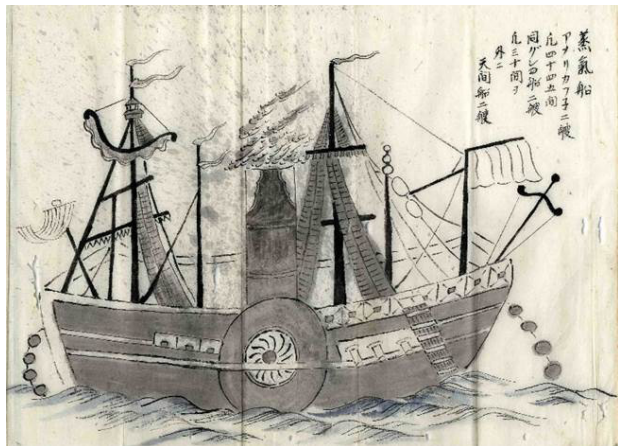
その地にあって、谷保の名を近郷近在に知らしめる助けとなったのは、幕府に御厩方として仕え、谷保に移住した本田家の存在でした。

先祖からの経緯もあり、幕末の谷保にあって医者としてよく知られ、尊敬を集めていた本田覚庵は、このころには現在の武蔵野市等、遠方まで往診していました。関東大震災で現在は失われていますが、往診に使われていた駕籠もあったそうです。

地域の医者として、特に産科を主として活躍しました。当時の出生に係るデータはありませんが、統計が取れていたとしたら、他の地域に比べ谷保はより多くの命が無事に誕生していたことが確認できるのではないのでしょうか。

「活人録」として覚庵の記した配剤診療記録には多くの人々の名が記されています。人を活かしたいと願って日々格闘した痕跡は、記録資料だけではなくあの家屋にも刻まれています。

家業の他に、書家としてもよく知られ、市河米庵の米庵流を御家流として揮毫された書幅は、人柄を表すよう



▲ 黒船来航図 覚庵により描かれた黒船。船舶だけでなく、湾内の状況他仔細が長文にて認められている。

### ▶ 鞍

本田家が將軍家の御厩方（馬医者）を勤めていた際に拝領した鞍です。

鞍骨に作者銘があり、延宝9年とあることから、綱吉の代に下賜されたと考えられます。

江戸根来（漆塗り）が美しく、鏝を除くすべてが揃う非常に貴重な資料です。



に勢いがあり、堂々たる筆跡です。

大書家としても立派な作品を残し、大きな幟が伝わります。祭りの度に建てられる大幟は、わが村の本田覚庵先生の書なのだと誇りであったに違いありません。（本田覚庵が書いた大幟▶）

親戚で、後年新撰組の副長となったことで有名な土方歳三は、よく本田家を訪れ、書を習っていたと伝えられています。覚庵の書いた日記に度々登場します。

天然理心流の奉納試合の際、額の揮毫を依頼しに、近藤勇と土方歳三が本田家を訪れ、朝方まですごしました。

また覚庵は、地域の豊かなることを願って用水開削事業も行いました。「花枝川」と称される用水は、田を潤す目的で取り組まれたものです。流路などは不明ですが、研究が進めば、現在の府中用水の元となっていたことが確認できると推測されます。「覚庵日記」中に度々記録が出てきます。

### ●明治・本田定年（退庵）

本田定年は、家督を継いだ兄・東朔が20歳で亡くなったあと、15歳で家督を継ぎました。そして明治を迎えた村で戸長職を、寝る間も惜しんで作業をしたという記録も残っています。

定年も本田家に伝わる米庵流の書の達人として多くの作品を残しております。後に民権運動に参加しますが、自分が役人をして見た地域の疲弊を嘆いて「武蔵野叢誌」という冊子を公けにしました。

その後、東京国立博物館で初めて書道展を開催した人でもあります。あまり知られていませんが、今の書道界の大きな流れの大本になる方です。

### ●大正から昭和・本田定寿（石庵）

明治・大正を迎えても、甲州街道の往来が唯一の交通経路であった谷保村にあつて、北部は広大なヤマと呼





▲ お正月の家族写真には、石庵が心労により倒れた時に書かれた書を背にしています。年末迄の日々をやりくりしてお正月を迎えて笑っています。  
(昭和9年)

ばれる落ち葉などの燃料を供給する雑木林でした。明治22年に新宿―立川間をつなぐ甲武鉄道が開通しても駅はなく、新たな交通網からは取り残された場所でありました。

明治41年から大正5年まで村長を2期務めた本田石庵は、この間、村費に私財を多く投じて村民の生活を守っており、村役場が現家屋であった時期もあります。その際使用されていた大きな机も土間に残されています。

私財を充てなければならぬ村の貧しい状況を深く心に刻み、その責を次期村長に譲りました。

箱根土地株式会社堤康次郎が谷保を訪れたのは、大正12年に起こった関東大震災後の13年夏でした。村長西野寛司、助役本田石庵の時です。

甲武鉄道に乗降駅をつくることや大学誘致、新しい目も眩むような街づくりの提案。ヤマは確かに貴重な燃料供給地ですが、村の貧しい状況が確実に変わる機会と先頭を切って行う決断をします。

当時の植栽の本数や計測などの資料が、本田家の家屋内調査の際、発見されています。

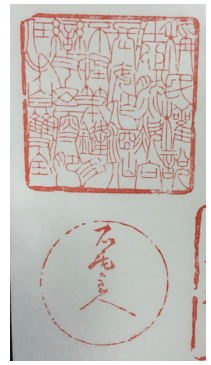
村長西野寛司のもと、石庵は村の発展のためにと、当時所有していた現在の国立東地区全域にあたる土地を提供します。

しかし、昭和恐慌の影響で、賛同をして土地売却に応じた村民に当初予定された金額が支払われることなく、結局石庵はさらに所有していた田を売り、それに充てました。振込用紙に大きく×が書かれた資料も調査で見つかりました。

幸福をもたらさなかった国立開発は、長く谷保村の中で複雑な感情を生みましたが、現在の学園都市国立のイメージがどれだけの恩恵をもたらしているかを考えると、その基となって村の発展を希望した本田石庵をきち

んと記憶し、今こそ家屋の保存伝承をもって顕彰するべきではないでしょうか。(篆刻印影(本田石庵作)▶)

第一線を退いた後、趣味であった篆刻に没頭し、中村蘭台に師事。泰東書道会その他中央書壇に出品して入選し、多数の賞を受け活躍しました。書は米庵流を受け継ぎ、父退庵、市河遂庵、市河万庵に指導を仰ぎ、書家石井



雙石、二代中村蘭台とは特に深い親交がありました。その他交友は広く、関係する方々の作品や交遊の記録が家屋の中から発見されています。石庵は、瀟洒で繊細な美しい篆刻作品を多く残しています。日々篆刻を行った三畳間も、作品が表具された襖もそのまま残されています。

#### ■国立記憶遺産として

今回紹介したのは本田覚庵、退庵、石庵ですが、他の本田家歴代も地域に多大な貢献をしています。それぞれの活躍はあの家屋に住み、人生を全うする中で行われ、その歴史の積み重ねを、家屋や所蔵資料を通じて知ることが出来ます。

本田家の方々だけではなく、各時代を生きた多くの谷保、近隣の人々の記憶が時代ごとに交錯する場所です。

江戸、明治、大正、昭和、どの時代をも包括する国立の家屋は、現地に限定したならば、もうただ1軒しかありません。各時代の人々の記憶を追想することが出来る場所であり、出来事を裏付ける資料群も揃う稀有な記憶遺産となっています。

記憶遺産とは、通常書物や文書などの資料群を言いますが、本田家の場合、紙資料だけではなく、人々が過ごした家屋や庭など、そのすべてが現在に残る非常に貴重なケースなのです。

皆様のご先祖も、同じ様に生きてきて、そのやりとりのわかる家屋と資料が本田家です。今の国立の繁栄の基を築いた方がいらしたお宅です。一人ひとりの過去に向き合うことは土地を愛していくことです。住むべき場所を知って愛しぬいていくことだと思います。

そのためにあの家屋と資料は絶対に必要で、今後国立という街が世代を超えて繋げていきたいという思いをどうやって持っていくのか。それがこれからの国立を決めるのではないかと思います。

本田家住宅は文化財としての価値も1級です。土方歳三など新選組との関係で観光としても展開できます。大いに宣伝して活用していただきたいと思います。国立駅舎、本田家住宅、郷土文化館の3か所を繋ぐような形で国立の街が展開されていくことを願ってやみません。